

財団法人 日本クリスチャンアカデミー機関誌

2011年3月号

はなしあい

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第522号

発行編集人

財団法人 日本クリスチャンアカデミー
理事長 シュベネマン クラウス

発行所

日本クリスチャンアカデミー
東京都新宿区西早稲田2-3-18
03(3207)6198
振替口座 01020-1-5184

キリスト教の歴史を眺めてみると、キリスト教は粘り強く対話し、話し合いをする伝統を守ってきたことが分かる。使徒言行録に見られる使徒会議は記録上最古のものである。2世紀のモントラス主義に対抗するために小アジアで開催されたのが始まりだとされる。そしてこれまでに無数とも言える会議、話し合いが行われてきた。古代のエキュメニカルな会議は、325年のニカイア公会議からはじめて、381年のコンスタンティノポリス公会議など七つが数えられるが、それぞれ前後にいくつもの会議を従えている。5世紀のアウグスティヌスはドナトゥス派の問題をめぐって20回近く開催されたカルタゴでの会議に出席するため、毎回はるばる300キロもの道のりを旅した。もちろんこれらの会議は相手を理解するためだけにではなく、何かの教理を決めるものであったので、これに反するものを異端とした。しかし結果だけに目をやるのではなく、事前にまずよく話し合っていることはもっと強調され



現代に「いのち」を考える

現代に「いのち」を考える

キリスト教とともに

現代社会を見ると、様々な分野で数々の問題が山積し、話し合いの必要が高まっている。多様化しているからこそ、理解と変化が必要になっていく。キリスト教の伝統は、ずっと平たく述べて、いのちを大切にすること、これを徹底的に考えねばならない。ところで聖書のなかに死のはじまりをたずねると、人間にとつて最初の死は殺人であったことが分かる。カインとアベルの物語に描かれている通りである。聖書では、死は

関西運営委員 土井 健司

「いのち」についても同様である。ES細胞やiPS細胞、臓器移植法の改定、尊厳死・安楽死、そして日本では10年以上も連続で3万人を越えている自死・自殺の問題など枚挙に暇がない。キリスト教としては、何よりもいのちの尊厳、「尊厳」という言葉がそぐわないのであればも

自然死ではなく、殺害からはじまっている。この点を指摘くださったのは恩師の一人水垣渉先生であった。聖書には殺害の記事が多く見られる。イエスも十字架で殺害されて死にいたる。聖書は単純にいのちだけを語るのではなく、重要なところでは、殺人を語る。その意味でいのちだけを語ってはいけない。そこには何か弁証法的なものがある。われわれも日々を振り返ると、もう生きたくないと

(関西学院大学神学部教授)

プログラム案内

◆関東活動センター

■第3回神学生交流プログラム
講師：加藤常昭さん(日本基督教団引退教師・「説教塾」主宰)
校長：岡田寛雄さん(日本基督教団神奈川教区巡回教師・青山学院大学名誉教授)
日時：2011年3月23日(水)～3月25日(金)
会場：鎌倉黙想の家
参加対象者：神学校から推薦を受けた神学生

◆関西セミナーハウス活動センター

■お茶のこころと宗教のこころ
第1回「最後の晩餐」と「茶道」をめぐって～お菓子とお茶とパンとブドウ酒～
講師：春名康範さん(日本基督教団天満教会牧師)
日時：2011年4月4日(月) 13:30～17:00
参加費：2,000円(抹茶代含む)
■開発教育セミナー
第1回：「開発教育入門セミナー」
日時：2011年5月8日(日)
場所：京都市国際交流会館
参加費：無料

◆お詫びと訂正

『はなしあい』第521号にミスがありましたので、以下の通り訂正するとともにお詫び申し上げます。
1頁 誤 関西セミナーハウス運営委員 高塚郁男
正 関西運営委員 高塚郁男
4頁 賛助会費・寄付金報告 誤 武正志郎
正 竹政志郎
誤 (株)エーザイ
正 エーザイ(株)

財団法人 日本クリスチャンアカデミー
理事長 シュベネマン・クラウス
本部事務局/関東活動センター
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館1F
Tel (03) 3207-6198
Fax (03) 3207-2478

本部事務局
E-mail:nca@academy-tokyo.com
関東活動センター
E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス/
関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹の内町23
Tel (075) 711-2115
Fax (075) 701-5256

関西セミナーハウス
E-mail:info@academy-kansai.com
関西セミナーハウス活動センター
E-mail:office@academy-kansai.org

賛助会費・寄付金報告

2010年12月1日～2011年1月31日
(順不同・敬称略)

◆関東活動センター

賛助会費
神田 道彦 10,000
奈良 信 5,000
木村 利人・木村 恵子 5,000
椿 邦良 5,000
吉田 豊 5,000
横野 朝彦 5,000
武藤 高司 5,000
牛尾 宣夫 5,000
天野 文子 5,000
島田 治夫 2,500
松井 進 5,000
菅原 伸郎 5,000
松本 繁雄 5,000
星野 宗吾 5,000
立原 敬一 5,000
石川 左門 5,000
吉崎 聆子 5,000
在日本韓国YMCA 10,000
寄付金
奈良 信 5,000
松本 誠 5,000
小林 義彦 2,000
高畑 昭久 5,000
橋口 仁 2,000
飯田 義雄 10,000
外谷 悦夫 5,000
高柳 允子 1,000
教団 東京府中教会 5,000
教団 市川三本松教会 3,000
佐伯 幸雄 10,000

クリスマス募金

木岡 毅 5,000
高德 芳忠 5,000
木村 利人・木村 恵子 5,000
椿 邦良 10,000
鈴木 百合子 10,000
上林 順一郎 20,000
天野 文子 1,000
長 清子 3,000
松井 進 5,000
菅原 伸郎 5,000
石塚 多美子 5,000
森野 善右衛門 3,000
大鹿 康廣 3,000
大橋 祐治 2,000
岡田 春美 2,000
薛 恩峰 10,000
無名氏 1,000
立原 敬一 5,000
教団 番町教会 10,000

第3回神学生交流プログラム

白方 誠彌 5,000
中井 博雅 5,000
韓 守信 5,000
高德 芳忠 15,000
白井 進 10,000
松原 千里 1,000
椿 邦良 5,000
横野 朝彦 5,000
藤倉 寿美子 10,000
島田 治夫 2,000
ランデス ハル 10,000
渡辺 曜子 5,000
網島 郁子 1,000
薛 恩峰 10,000

志満 武 5,000
上林 順一郎 30,000
飯島 隆輔 5,000
松本 敏之 5,000
本山 幸子 5,000
教団 経堂緑岡教会 10,000
教団 長岡京教会 10,000
教団 千代田教会 10,000
恵泉女学園中学・高等学校 20,000

◆関西セミナーハウス活動センター

賛助会費
鈴木 正穂 3,000
シュベネマン クラウス 10,000
根岸 宏邦 5,000
中村 清 5,000
佐野 千枝子 5,000
湖月 美和 5,000
西川 治郎 3,000
關岡 一成 5,000
井上 和子 5,000
高橋 正令 5,000
白子 宗介 10,000
佐治 孝典 3,000
寄付金
酒井 哲雄 5,000
殿村 元一 3,000
新宗連大阪事務所・生田茂夫 SMILE・西田真哉

西村 久代 5,000
堀江 優 10,000
岩坂 二規・泰子 3,000
高田 照一 5,000
西川 淳 5,000
西川 治郎 2,000
村田 和美 5,000
米田 貞一郎 3,000
藤谷 正一 3,000
島田 恒 10,000
日本キリスト教会吉田教会 10,000

京都YMCA 5,000
松原 千里 1,000
徳弘 篤介 5,000
保田 茂 3,000
松本 圭子 5,000
岡山 孝太郎 10,000
小沢 妙子 5,000
今井 奈都子 1,000
網島 郁子 3,000
谷口 善志郎 3,000
榎本 宋次 5,340
谷村 禎一 3,000
原田 博充 3,000
金山 颯子 15,000
ドイツ教会 30,000
教団 仁川教会 10,000
教団 倉敷教会 5,000
教団 平安教会 3,000
教団 紫野教会 3,000
教団 宇治教会 5,000

◆関西セミナーハウス

寄付金
(有)ランバート 3,000
中村泰洋園 10,000
土田商店 10,000
盛京会 5,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。

関西セミナーハウス活動センター

●2010年度「お茶とキリスト教研究会」
 第2回「十六世紀のヨーロッパから来た
 宣教師の見た禅・茶は彼らにどう映ったか
 ～禅・茶とキリスト教の精神的共通性について～」

ジェイアール京都伊勢丹常勤監査役 鳥居興彦さん
 2010年9月22日(水)

鳥居興彦さんは、カトリック教会の信徒でミサのカリスマを清める仕事とお茶の茶巾の使い方の共通点が気になり、長年お茶とキリスト教の関係について調べてこられました。まず15世紀後半～17世紀初めにかけての日本におけるキリスト教の活動に関する文献について説明され、そこに記されている宣教師の見た禅やお茶に関する記録を掘り起こしながら、キリスト教と茶、禅と茶、キリスト教と禅の関わりを解説されました。年代的に、お茶の確立をした村田珠光と千利休と武野燭は同時代の人であり、1549年にザビエルが日本に来たことからキリシタンとの接触の可能性は否定できない。

と自分の中の神を知ることですが、共通性が高い。宣教師たちは禅とお茶を見て、神との合一という共通点を見出し、これは礼拝であると考えたとしても不思議ではありません。

●2010年度修学院フォーラム「いのちを考える」

第2回「トラウマとしての『性』、
 聖なるものとしての『性』」

ロマリンダクリニック院長 富永 国比古さん
 2010年10月23日(土)

富永さんは、長年産婦人科の臨床医として様々な悩みを抱える女性の相談に乗ってこられた。その経験から、最近子供に対する性的虐待、レイプトラウマ、人工妊娠中絶後のトラウマ、セックス依存症などの性的トラウマや、性感染症がいかに増え、深刻化しているかを紹介し、これらが人間の存在を根底から揺るがしていること述べられた。また、これら女性のカウンセリングに当たっていると、性は人格の中核にあるとあらためて感じ、さらに性的トラウマは、人間

せん。当時の禅宗の僧侶の中から多くの僧侶がキリシタンになったことも学問好きでな宗教の僧侶らしさが原因ではなく、求めていたものの共通性が原因ではないかと思われます。現在でも、修道女や神父、牧師で座禅をする人が多くお

られます。禅と茶とキリスト教は共通点が多いが、影響されたとか真似たということではなく、高度に洗練された「道」として深いところで共通点を持ったという視点を見逃してはならないとまとめられました。

学校では、コンドームやピル、あるいは小学生に対するHPVワクチンの集団接種など、いわゆる安全な性行為「セーフセックス」を骨子とした教育が行われており、性を「人格的な交わりの性」としてとらえる視点の教育はほとんど行われていない。性を人格の中心におき、聖なるものとしてとらえるのでなければ、人間を性的隷属状態から解放し、人を人として生かすことはできないと強調された。

はなしあいでは、電話で性に関する悩みの相談に乗っている人、性の悩みを抱えている人と共に歩もうとしている人、大学で性教育の在り方を研究している人などもそれぞれの立場から発言し、参加者は、この問題の深さを感じた。

関東活動センター

●連続講座
 「いま、聖書を読むとは」
 ～講座全6回をふりかえって～

関東運営委員 古賀 博

連続講座「いま、聖書を読むとは」を2010年6月15日から11月16日まで、毎月1度、計6回開催しました。

この講座は、関東活動センターにおいて、今後の定期的開催を視野に入れた準備



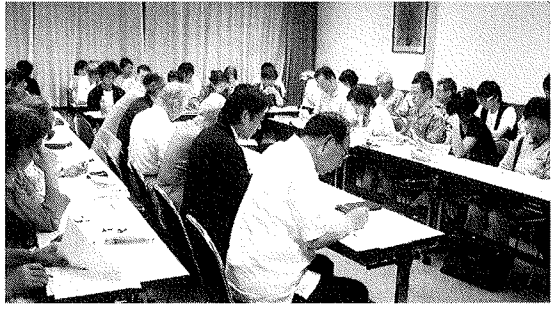
立脚点があやふやになる危険性とも背中合わせです。こうした現実を踏まえて関東活動センターでは、活動の原点を再確認していくプログラムとして、直接に聖書に触れ、学ぶ講座を継続開催していく必要性を実感してきました。また、一般参加者にも分かりやすい形で聖書を読み解くことを第一の目的としつつも、アカデミーのプログラムとして、学びを通じて現在のキリスト教や教会の現状を問い直し、今日的課題への示唆を受け得る講座を目指して計画を進めました。

日本クリスチャンアカデミーは、その名の通り活動の根底にキリスト教を置き、幅広いプログラムを展開しています。しかし、その守備範囲と関心領域の広さの故に、その

ん(東京大学名誉教授・自由学園最高学部長)に交渉し、お引き受けいただきました。講座の内容も一般書店にも並んでいない講義の内容に沿って進めていくことをお願いしました。

講座の形式に関して、講師より一つの提案を受けました。講義として一方的に語るのではなく、自身も新たな刺激を受けたので、毎回レポーターを立ててテキストを読んでの感想・疑問などを提示してもらい、これに講師が応答するゼミ形式で実施したいというものでした。

第1回は全体を俯瞰しての講義となりましたが、最初に今後の連続講座の進め方に関するオリエンテーションを行い、参加者の理解と積極的参加を求めました。



いきました。まず第一には、どのような質問や意見にも柔軟に対応してくださった講師の力量によりますが、同時にテキストの内容に鋭く切り込んでいった参加者たちの積極性も大きかったことは間違いありません。

大学生から70代のご婦人までわたったレポーターの報告への講師の応答は、新約聖書の成り立ちや時代状況の解説など新約聖書学緒論の豊かさを持ち、時には仏典やコーランの分析、ドストエフスキの小説内容にまで及ぶなど、

毎回の参加者は30名程度、年齢層は中学生から高齢者にまで及びました。多くは教会関係者でしたが、中には今回初めて聖書に触れるという方もあり、今回の講座を通じて大きな刺激を受けると同時に、聖書の学びをこれからも継続していきたいとの感想が寄せられたことは、講座担当者としてうれしい限りです。

今後ともこうした聖書講座を定期的に開催して、アカデミー活動の原点を確認しつつ新たな出会いを求め、現代へのメッセージを聖書から共に聴き取っていきたく願っています。(早稲田教会牧師)